

まぐひ かわら版

発行 吉前町郷土史研究会
吉前町郷土資料館
平成26年11月

知っておきたい 吉前町の歴史

紀元前6000年頃 吉前町に人が住み始める
8000年頃 香川(線遺跡)に集落が広がる

1634(寛永11)年 トマイ交易場所が開かれる
1667(寛文7)年 松前蝦夷図に「トマイエ」の地名あり(地図最古)
1670(寛文10)年 「寛文拾年秋陸奥書」に「トマイ」の地名あり(文献最古)

1804(文化1)年 紀州の榎原角兵衛が煙土屋を建てる
1823(文政6)年 榎原家行籠を寄進(吉前神社に現存)
1859(安政6)年 庄内藩の支配地となる(陣屋を置く)
1862(文久2)年 庄内藩士石川小次衛死去(霊魂現存)
1864(元治1)年 大絵馬奉納される(吉前神社現存)

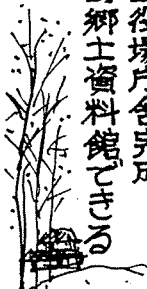
1876(明治9)年 医師村山謙造自宅(子供産に読み書きを教える「寺子屋」跡)
1880(明治13)年 吉前に戸長役場が置かれる(開基)

1884(明治17)年 藤田万助初めて稲を収穫
1890(明治23)年 にしん漁業盛んになる
1896(明治29)年 古舟別原野に本州より団体移民開拓が盛んになる

1899(明治32)年 自衛隊が初めて入る(川村徳太郎)
1915(大正4)年 留萌と吉前間乗合馬車が走る
三毛別にて難事件10人殺傷
1922(大正11)年 留萌と羽幌間乗合バスが走る
1924(大正13)年 吉前市街(下町)大火(13日焼失)
1928(昭和3)年 電灯がつく(ニッポオが入る)
1931(昭和6)年 鬼鹿と古舟別間鉄道開通
1932(昭和7)年 鉄道が羽幌まで開通
1934(昭和9)年 吉前船入船漁港(完成)
オートバイが初めて入る(津田幸彦)

1942(昭和17)年 霧立への森林鉄道開通
林業盛んになる

1948(昭和23)年 吉前町となる
1957(昭和32)年 川田親雲の歌碑建立
1980(昭和55)年 吉前町開基百年記念式典
1981(昭和56)年 吉前町役場庁舎完成
1983(昭和58)年 吉前町郷土資料館(まぐひ)の



吉前町の史跡と文化財

水田発祥の地(割)
岩手県生まれの藤田万助翁が明治17年、初めて米の収穫に成功した。発祥の地の碑は国道23号線のそばに建立

岩見の一本松(特見)
明治29年、開拓者が入植する前から生育しており、開拓の記念樹(イイ)である

運上屋跡(下町)
文化元年、開港場の交易の役所として海産物等の取引や税金の徴収など、榎原角兵衛が支配人

陣屋の跡(上平川)
安政6年「トマイエ」は庄内藩の所領となり、広大な土地を監視するため、上平川尻の高台に陣屋を置く。藩士石川兵衛

岡田番屋(下町)
昭和15年前からのにしんの建網番屋
平成13年度北海道遺産指定

寺子屋発祥の地(下町)
明治9年、医師村山謙造が自宅で読み書きを教えた(旧長島商店)

くま獅子舞
大正4年12月、三毛別の開拓地で起きた巨大龍による10人殺傷事件をモチーフにした吉前町無形文化財

戸長役場跡(上町)
明治13年、吉前力風自治の3村を統合し、戸長役場を吉前に置いた
この年を吉前町開基とした

郷土資料館から

●今年の入館者は4,939人でした(昨年5,134人)
●印象に残った人、香川県から来た男性が香川県から吉前町へ入植した人を訪ねられたものを公民館へ勤める鴨田誠さんと紹介している話を聞いたため、琴平神社へ参拝して帰ったのち、ほれ杖が角た(10月中旬)

●イタチが資料館に入ってきた時、テレビを観ていた男性が素早く追いついてくれた。後で言うのには「私はイタチやテンが好きで習性を知っている」とのことであった。
●香川の織田せんがシブリア留中家族へ宛てた手紙(資料館展示)を京都から来た2人の息子さんが羽幌での法要の途中、立寄り手紙を懸念量の面持まで長時間見入っていた。

三浦光世さん逝去

吉前町とゆかりのある作家三浦綾子さんの夫で三浦綾子記念文学館の館長である三浦光世さんが10月30日逝去された。90歳だった。

おねがい

古代の里の縄文の住居で遊ばないでいた方がいい。病弱であつた綾子さんの多くの作品は光世さんが口述筆で支えて完成されてあり、まさに二人同体の作家生活だった。おねがいお祈りいたします。

「愛読者のみなさん、おねがひです。資料館にはお元気で新しい年をお迎えください。」

